

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	新任職員はもちろん、家族にも運営方針・理念等を入居時又は定期的に説明し納得して頂けるようしている。また、事業所内に掲示等も行なっている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員が常に意識して共有できるようにしており、ケアについて苦慮する場合には、初心にかえり運営理念等を共に考えながら入居者に対して支援を行なっている。	○	今後、ユニットの課題点を挙げ、目標設定をスタッフと一緒に進んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの理念や、実践していること、活動内容等の写真などをたくさん載せ、生活状況など家族の方に報告している。地域のケアマネ、医療機関、行政等への広報誌等の配布や、地域の人々には、散歩や買物等に出たときなど理解を得て協力して頂けるよう努めています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	小学校、地域住民も含め夏祭り等への参加を呼びかけたり、地域の餅投げ等の行事への参加をする事で、関わり合いを増やし、日常的に近隣の人々が気軽にホームに立ち寄りできるようにしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の消防訓練の参加や、地域の学生のボランティア活動の参加、福祉の養成研修事業の実習等とおして、地元の人々と交流する機会を常に持っている。又、入居者が外出、散歩、買い物においても店の店員と顔馴染みになったりして、入居者が気軽に話しできるように支援している。		

あいの里悠々 みふね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の民生委員等の会合に法人全体で参加をしたりしながら認知症の啓発に努めている。又、実習生を受け入れることで地域への認知症高齢者に対しての理解を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行ない勉強にサービスの質向上に努めている。評価を活かし改善に向け会議を行ない向上につながる様に取り組んでいます。	○	外部評価での指摘事項、気づきを改善し良いケアをできるようにスタッフ全員で会議等をとおして勉強していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに実施しています。実践報告等を積極的に行なっています。又、参加のメンバーの中から地域の行事の情報等の意見交換、独居老人の対応方法等地域包括センターの職員、地域の民生委員、自治会とも話し合い、グループホームとしてはどういう風に交流を持っていくのか話し合いを行なっています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と連携をとり、自施設のケアの方針、ケアする中でのトラブル、介護保険制度について等、常に報告することにより、自施設と市町村との透明性を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業や成年後見制度を必要とする入居者が居ない為理解できていないが、必要時に行政とも連絡調整を行いながら、実施していきたい。	○	勉強会を開催し、職員の理解を深めその様な事態が起きたときに対応できるように努力したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者への声掛け、コミュニケーション等が雑になり、言葉の虐待とならないよう常に管理者会議、スタッフ会議も含め話し合っており、何が虐待にあたるかを話し合う機会を持つようにしている。又、入居者の身体状態を観察し、見過ごすことがないように努めています。	○	現在でも虐待等の研修会に参加しているが、より一層虐待防止関連法の研修への参加を行い、職員の学ぶ機会を増やしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には入居者及び家族が分かりやすく不安なことが発生しないように、説明を行い納得したうえで入居の手続きを行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者のストレスが溜まらないよう、スタッフがコミュニケーションをとったり、状況に応じて声掛けを行ったり、入居者が自分から言い出しやすい雰囲気のできるよう心掛けており、入居者が日常生活を送る上で反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の健康状態及び生活状況等については、入居者家族が面会に来たとき及び家族が面会に来る時間がなかった場合については電話連絡等で報告を行ったりしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を設け家族同士で交流する機会を作ったり、家族が訪問時には困ったことや、不安なことを何でも話してもらえるような雰囲気作りを心掛けています。出された意見については、処遇会議等で話し合いながら、ホームで対応できる範囲については対応している。しかし、対応できない範囲については、家族と話し合い、お互い歩み寄れる様に支援している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ケア会議等においてスタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。又、緊急の場合においても都度時間を作り意見交換を求めて、反映できるよう心掛けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者が重度化したり、ターミナル期、混乱期等において柔軟に対応できるよう勤務表に変化を加えている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフの離職、異動等での入居者の混乱を防ぐことができるよう新しくきたスタッフ、残ったスタッフと協力しながら、入居者へのダメージを最小限に防げるようコミュニケーションを重視し、早期に馴染みの関係ができるようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修にできる限り参加をし、スタッフが入居者を支える上で少しでもプラスとなる様に取り組んでいる。又、研修後においてもスタッフ同士共有したりできるように取り組んでいる。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会や他のグループホームの見学等での事例検討を通して意見交換・運営方法を検討している。又、お互い良いことはホームに取り入れながら支援を行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の仕事に関するストレス、疲労についての要因を探り話し合いを持ったり、適時休憩を取り入れることで、気分良く仕事ができるように取り組んでいる。また、定期的に職員同士の親睦会も実施している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフの意見を取り入れながら、仕事にやりがいと向上心を持って働くことができるよう、介護福祉士、介護支援専門員、認知症実践者研修を含めた資格の取得に向けた支援を行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所時の面談にて入居者の要望や家族の不安を解消するように努め、スタッフは入居者の心身の状態を把握し、受け止められるような関係作りを行っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時の面談にて家族の求めているものや、おもいを受け止め、入所にいたるまでの経緯、希望・要望等についてじっくり話を聞く時間を設け体制作りを行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の想いや状況等を確認しながら、本人・家族の想いにホームができる限り対応できる様、柔軟に行っていません。必要時には、医療機関・訪問理美容等の他のサービスに繋がっています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、事前訪問を行いスタッフとコミュニケーションをしたり、家族はもちろんの事、本人にも見学してもらい、場合によっては半日ホームで一緒に過ごしてもらったり、他の入居者、スタッフと馴染みの関係ができるように支援し手、本人が納得しながら入所できるようにしている。また、法人のサービスを利用している人や、地域の人を積極的に受け入れることで、安心してホームで過ごせるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的な援助ではなく、入居者の方から日常生活を送る中で『生活の知恵』を教わったりお互い助け合いながら生活している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフが一方的な支援にならないよう、訪問時、電話連絡等により家族と意見交換をしながら、お互い協力し合いながら入居者の方を支えるようにしている。	○	大半の家族の方は協力が得られているが、一部協力が得られない家族もあるので、家族会等において啓発しながら浸透するようにしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠の家族に関しても、グループホームに入居することにより、互いに本人との関わりが増えたり、修復できるようスタッフから家族に働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に行ったり、在宅で暮らしていたときの友人、知人が面会に来てもらえるよう家族の方と入所時に話し合ったり、継続して関わるができるよう声掛けを行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングで過ごす時間帯を多くもち、入居者同士が会話をする中でお互い助け合い、車イスを押したり、買物の時など他の入居者の荷物を持ってもらったりしながら助け合って生活している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたりするとお見舞いに行ったり、亡くなられたり、サービスを終了した場合においても家族の方と継続的に話を聞いたり関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方と日々の関わりあいの中で、入居者の表情や言動から想いを図ったり、言い出しやすい雰囲気作りを心掛けている。又、入居者の真意を家族及びスタッフが把握することでお互い協力しながら家族と共に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の書式を活用しながら、入居者の生活歴・価値観・好きな食べ物・趣味・特技やサービスに至った経緯等を本人や家族の訪問時に聞き取り、少しずつ把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	暮らしの流れに沿って入居者本人の状況を総合的に把握し、出来ることを維持しながら本人のペースで安心して暮らしてもらおうことができるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や、家族には日頃の会話の中や、訪問時に話す中で意見を聞きプランに反映させている。スタッフで意見交換・モニタリング・カンファレンスをする事でプラン作成に活かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行っているが、状態が急変時等においては、入居者及び家族の要望を聞き、意見交換をすることで見直しを行い、新たなプランを作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに食事・排泄等の身体状況及び日々の生活状況、本人の状態・現状等の記録を行っている。スタッフがいつでも共有できるようにしており、勤務開始前の確認を義務付け、日々の介護やプランの見直しに役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスセンターへの参加、自立、介護予防における運動の参加を行ない、そこでの地域の人との交流の場となっている。又、訪問看護ステーションと契約を行い、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に消防署にお願いして防災訓練を行っており、又地域の防災訓練にも参加をし地域と協力できるような体制作りを目指している。又、警察、小学校の先生の出入りも多く地域ぐるみで支えあう様にしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前、入居後においてもケアマネジャーとの意見交換交流会の参加などの機会をもっている。又、訪問理美容、オムツの支給において包括センターや地域の理美容店を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、おむつの支給や、運営推進会議への参加等をお願いしている。又、一緒に地域の消防訓練に参加したりしている。	○	地域包括センターと共同して、地域を支援する回数を増やして行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっているが、往診に来てくれる事業所の協力医をお願いするケースが多い。ほとんどの方は入所されるときに連携医を希望される。		

あいの里悠々 みふね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医ではないが、地域の内科の医師で随時、認知症の事について相談にのってもらっている。又、必要時には専門医を紹介してもらえるようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションの看護師と連携をとっており、夜間においても緊急時に訪問してくれることがある。又、スタッフの医療に対する不安を聞いてくれたり、状態の悪化した入居者の情報交換を行いながら支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、何度も病院に足を運び、入居者に対しての情報交換・相談や、入居者の早期退院に向けての啓発を医師に行なっている。又、退院後においても入居者がスムーズに日常生活を送れるよう相談等も行なっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合については、常に主治医と、家族、スタッフで連絡、相談を行ない、支援方法等の意思疎通を家族が理解できるよう行なって支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医、訪問看護ステーション、家族と意思疎通を図ることにより、今後の状態変化した場合や、支援方法について検討会を行なっている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や本人と十分な話し合いをして、グループホームに移った時リロケーションダメージが伴わないよう、見学、体験等を交えダメージを防止できるよう、支援を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルに関しては、戸棚の鍵のかかる場所に保管しており、スタッフしか取り扱いができないようになっている。又、おむつ交換等の声掛けに関しては、遠くから大声で言わないよう、入居者の耳元等で話をするように心掛けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	介護現場での入居者の意見をスタッフが集め、ケア会議、申送り時に意見交換をし、できる限り入居者の想いに応えられるよう、支援を行なっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援が画一的、効率的にならないよう、個々のペースを大切に支援を行なっている。又、例え入居者が望んでいる暮らしができなくても、できる限り本人の希望に近づけていくことで、入居者が満足して過ごしてもらえることができるよう支援している。	○ 認知症上の進行や、問題行動により入居者全ての希望に沿って支援できないが、長い時間を掛けて、その人を知ることによって本人の希望に沿って支援をしていければと考えている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居時に、本人が希望する理美容店の利用を勧めている。しかし、家族等の希望がない場合については、地域の訪問理美容を利用し支援している。又、化粧等に関しては、スタッフが一緒に身だしなみを整えられるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて、炊事、盛り付け、配膳、片付け等スタッフと一緒にしている。毎月1回、外食や弁当をとったりして入居者の気分を変えて支援していくことで食事を楽しんでもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の中に、たばこ、お酒等の習慣がある入居者はいないが、希望の入居者がいたケースにおいては対応可能にしている。又、入居者の好物や昔から食べる習慣があるものに関しては、家族に適宜持参してもらったり、買物時に購入したりすることで、継続して食べることができるようにしている。認知症状の進行の為、食べた量等分からない入居者についてはスタッフが管理するようにしている。	

あいの里悠々 みふね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿パターンを介護記録に記載し、入居者の排尿リズムをスタッフ全員が知るようになり、入居者の状態に合わせて、トイレ誘導の声掛けを行ったり、オムツ等の交換を行ったりして、入居者が不快感なく日常生活を過ごせるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は人員配置の都合で昼間の入浴となっており、希望する時間を入居者に聞いたりして支援を行なっている。又、夜間入浴を希望された時は、状況に応じて支援を行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間寝つきが悪い入居者に対しては、スタッフと一緒にお茶を飲んだり、会話を楽しむことで、入居者が安心して睡眠を取れるように促している。又、家族の方にも泊まってもらったりすることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事、掃除、ゴミ捨て等入居者で役割を決めスタッフと一緒に支援して生活している。これらの事を行なうことにより、入居者が意気に感じて行なってくれている。	○	入居者の趣味(手芸、編み物等)楽しみごとを伸ばせれるような支援を行なっていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の小遣いは持って頂いているが、物盗られ妄想など、利用者同士のトラブルもあり、今は持ってもらっていない。買物時など入居者の方にお金を渡し、立替えなどを行ない希望に応じ好きな物を購入している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや外でお茶会・季節の果物を採取をしたり、買物や季節の行事ごとに合わせて外出支援を行ない施設内の滞在時間を増やすのではなく、時間がある限りは外出できるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一回の外出や、入居者の希望のところに外出を行ったりして、日常生活を楽しんでいる。又、家族会にても家族、入居者、スタッフで季節ごとのイベントをしたり、外食をしたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により、家族、知人、親類に電話及び手紙で文通したり、連絡が取れるようスタッフが支援しながらやりとりをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人を含めホームに来ていただいた時は、一緒におやつを楽しんで頂いたり、散歩などもして頂いたり、訪問者が遠慮のしない様、居心地の良い雰囲気心を掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として、身体拘束はしていない。又、身体拘束を安易にしないよう家族やスタッフと意見交換をし、入居者が自由に過ごせるようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	環境面でさりげなく配慮を行ったり、適宜スタッフが入居者に話をしたり、見守ることによって、日中は鍵をかけずに自由に外に出られるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間を通して居室にいる時間が長い入居者の方には頻繁にさりげなく見回りを行ない状態把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	普段から入居者の行動や状態を把握し、危険な状況をすぐに察知できるようにしている。入居者の思いがけない行動や状態変化に対してはケア記録等にて全職員に送り、原因を探ったり、対応方法の確認を行ないながら生活環境を変化させている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリ・ハットでの報告・記録から危険への気付きを、原因を探ってスタッフ全員が共有できるようにしている。それでも万一、事故が発生した場合には事故の原因究明と、今後の予防・対応策等について検討し、家族への説明と報告を行なっている。		

あいの里悠々 みふね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に救急法の講習に参加している。又、事故発生時の連絡方法及び対応方法については職員の目の届くところに貼っており、全職員が把握し発生時には対応できる様になっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、入居者と共に避難・火災訓練を行っており、消防機具の使用方法等の確認をスタッフを含め行なっている。又、スプリンクラーや自動火災報知器等の設置はされ、器具の点検も実施しており、万一の火災に備えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居前に情報収集した中から、入居時には起こりえるリスクを家族と共に話し合い共有することで事故を事前に防止できるように協力を得ている。又、入居者の状態に合わせて入居後も都度連絡をとったりしながら話し合う機会を持っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の普段の状態を把握しており、観察することで早期に状態変化が発見できるようにしている。状況に応じ、健康チェックや主治医に連絡し病院受診に繋げるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医より服薬の説明書をもらい、スタッフ全員が把握できるようにしている。又、薬の種類や容量が変更になった場合には、必ず申し送りして、情報を共有しあうことでユニット全職員が把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者個々に応じた便秘予防の為、水分補給、デザートにヨーグルトを入れたり、散歩等の運動促進などを日常生活に頻繁に取り入れることで、自然排便を促す為の工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を職員全員が理解し、就寝前及び食後の義歯の洗浄及び口腔のケアを行なっている。		

あいの里悠々 みふね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をチェックしており、全職員で情報を共有している。水分摂取量が少ない入居者にはタイミングをはかって声掛けを行ったり、飲みやすいように、ポカリスエットやジュース、コーヒー、紅茶等入居者の好みに合わせ提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健所の指示の下、感染症に対するマニュアルを作成しており、実行している。又、外出後、食事前の手洗い、うがい等の実施、入居者の家族と相談しながら入居者のインフルエンザ実施を行なっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等の清潔や衛生管理について歯、日頃より漂白剤を使用したり、アルコールの消毒液等を使用し清潔に努めている。又、食材においても冷蔵庫内の食材の鮮度確認はこまめに行い、いつも新鮮な食材を使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	事業所へ家族、地域住民、入居者の知人等の訪問をしやすいように玄関先には四季折々の花を生けたりして、親しみやすい雰囲気を演出するようにしている。その為、家族、地域住民、入居者の知人等の訪問も多い。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでたくさんの時間を過ごす入居者が自分の家として居心地良く過ごす事ができるよう、玄関先、食堂は季節感を取り入れた飾り付けをし安心して日常生活を楽しめるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先には小さなソファがあり、気の合った入居者同士で会話をしたり、入居者がくつろげる空間としての工夫をしている。		

あいの里悠々 みふね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に入居者が使い慣れた家具や、馴染みの物を持ってくることができるよう、入居前に意図等、家族に話をし理解を得ながら持ってきてもらえるようにしている。又、居室においては、入居者本人の昔の写真を貼ったりしながら、居心地良く過ごせることができるようにしている。	○	入居者の大半の家族が、馴染みの物を持ってきてくれるが、家族によっては協力を得ることができない家族もいるので、その点を工夫しながら取り組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアや掃除時には、空気の入替えを行い食堂に温度計を置くことで空調を調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームは壁紙に手すりの設置で安全に移動出来るようになっている。又、調理器具においてはIHを導入し、共同トイレは車イス対応し入居者の状態に合わせた自立した日常生活が過ごせるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ほとんどの方が自分の部屋を認識できているが、認識できない入居者の方にも、部屋の前に分かりやすく表札を張ったり工夫することで自分の部屋と認識出来るようになっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にあるプランターの水やりや畑等での豆まき、収穫、藤棚にてティータイムを楽しんだり、中庭でお弁当を広げたりと日常生活を楽しんで頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

あいの里悠々 みふね

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

夏祭りや、小学校との交流会を含めてのボランティア活動等の機会を多く持ち、地域とホームの繋がりを深め、入居者と一緒に地域に貢献で出来るような支援を行なっていきたい。